

③ 静岡県における有機抹茶の生産力を向上 【静岡オーガニック抹茶株式会社（川根本町）】

■活用した事業

「産地生産基盤パワーアップ事業」を活用して抹茶加工施設を整備

■経営の概況

生産者と茶商が出資をして会社を設立し、碾茶を抹茶に加工する工場を整備した。年間300トンの抹茶を生産し、県内の茶商を通じて世界に抹茶を輸出している。従業員は14人である。また、県内で同施設に出荷する碾茶を生産している茶園の面積は110haであり、碾茶を出荷する碾茶工場は10か所である。

■取組内容

・会社の設立と抹茶の生産

海外での有機抹茶需要に対応するだけの抹茶工場が静岡県内になかったため、工場をつくるために碾茶の生産者と抹茶を扱う茶商が出資をして静岡オーガニック抹茶株式会社を設立した。

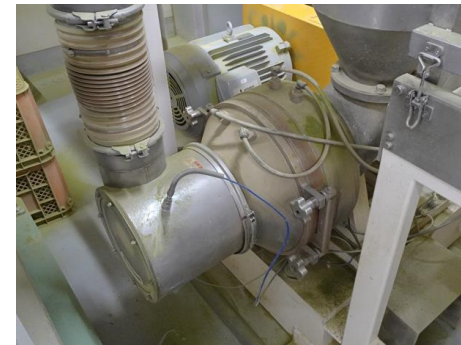
碾茶を抹茶に加工する抹茶工場を産地生産基盤パワーアップ事業を活用して建設し、令和2年に操業を開始した。輸出をするために、有機JAS、FSSC22000の認証を取得している。また、海外からのバイヤーにオーガニックを印象付けるため、施設の立地を街中ではなく山の中とし、建築家によるデザインの外観を持つ施設とした。

・農家との関係

碾茶の買い入れに当たっては、成分分析（窒素分と繊維分）によって最高位のSからEにランク分けされる。成分分析で買い取り価格が決まることから、透明性があり、生産者が安心して碾茶生産に取り組めるようにしている。また、年に2回価格に関する要望を生産者から聞き取っており、資材価格高騰も踏まえた価格を設定している。



工場の外観（入り口側）
地元産の木材を活用している



サイクロンミルの心臓部
（茶葉どうしをぶつけて粉碎する）



生産した抹茶
（写真は静岡オーガニック抹茶株式会社提供）